

【ねがいましては】

第79号

平成7年10月25日

共和珠算学習塾

「現実と理想のギャップ」

私達の生活に絶対に必要なもの・・・お金。大人の世界ではお金お金と、お金に振り回されている方が多くいらっしゃるかもしれません。

一方、子どもたちの社会では成績成績と、成績に振り回されている子も多くいるはずです。

私たちの時代には「通信簿」と呼ばれていたものが、今では「あゆみ」と名を変えています。小学生たちは「あゆみ」でドキドキ、中学生たちは「通信簿」や「順位」でドキドキ。

親の悩みは現実そのものです。生きていけるか?という生々しいものです。しかし子どもたちに突き付けられているものは、生きていけるかというものは違います。

しかしです。子どもたちはかなり真剣に捉えていると思います。こころの面では大人同様、現実的問題として考えている子は多いと思われます。

私としては「のびのびと育ってほしい」という気持ちでいっぱいなのですが、その一方で日々、子どもたちは「成績」という魔物と戦っているわけです。

現実社会、大人たちは「お金」という魔物と戦い、子どもたちは「成績」という魔物と戦う。親たちは、我が子にはお金で苦労させたくない。そこで子の成績に気持ちが動きます。単純な理想が現れます。お金をかけ、個人教授でバシビシと成績をエスカレーターのように上げる。やがて有名大学、有名企業、生活安定。

少し極端かもしれません。

たたかれながら這い上がってきた方の中に自分がしっかり宿っていればよいのですが、とても不安になります。

「失敗してでもいいから、自分で道を考え、自分でその道を歩く」が、どうも私は好きなです。その歩んでいる姿が生き生きとして見えるのです。地味ですが「こつこつ」「マイペース」で、さらに助け合いながら笑顔の絶えない風景を理想としています。そんなこと言ってたら現実に打ち勝つことなどできないよと言われそうですが・・・。それでも私は「ガンガン」より「こつこつ」なのです。同じ勉強でも「こつこつ」は根っこがしっかりとしています。あまり欲張って羽を広げすぎると頭でっかちで倒れそうです。

ここにはテストがありません。その子その子なりの自分が持っている歩み方、スピードで取り組みます。しかし、やはり人は人、楽がいいに越したことはありません。当然「さぼる」人もいます。サボった結果を身をもって受け止めることも丈夫な根っこを作るための肥料なのかもしれません。

「自分で道を作り、そしてその道を歩んでみよう」

私はそのような君たちのお手伝いさんだと思っています。

私は学校の勉強を中心とした勉強になりがちな自分に矛盾を感じています。なぜならここへいらっしゃる子どもたちは皆、学校の成績への期待をされての入塾だと思うからです。その期待に応えたい、当然だと思います。しかし一方で、時々思うことがあります。本来は「こころを元気にする」ための勉強のほうがいいのではという気持ちです。

その子その子にピッタリの学びたいことに取り組んでいただく・・・。

どうでしょうか?

その点では、皆を一齊に同じレール上を歩かせる学校のことがちょっと・・・。